

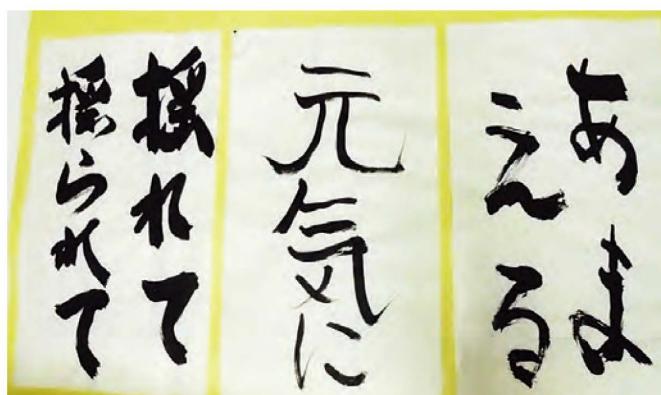
Awara News

あわらニュース vol.77

平成31年2月1日発行

「多くの人の笑顔のために」

- 重症心身障がい、難病、長寿医療を柱とし、地域に密着した専門医療を提供します。
- 社会的なアプローチを組み入れ、患者中心の心あたたまる医療を実施します。
- 臨床研究、教育研修、安全管理をとおして、常により質の高い医療を追求します。
- 公益性を確保し、効率的で自立した病院経営を推進します。



新春書き初め

療育指導室 児童指導員 東 優美

初春の清々しい気持ちをことばにする「新春書き初め」が今年も行われました。

墨の香り、新しい筆の感触を確かめながら真っ白な半紙に向かい、患者さん一人ひとりが「今年の目標」を考え、書に託します。

大きな筆を身体に力を入れて一生懸命に握り、一筆一筆に力がこもり、力強い書になったり、なかなか筆を握ることが難しい患者さんは指筆を使用し、繊細な書になったりと、一人ひとり個性あふれる作品ができあがりました。

今年は、どんな一年が待っているのだろう。今から考えるだけで、ドキドキ・ワクワクが止まらない、そんな一年になりますように…。一筆一筆に願いを込めて…。

患者さんの作品は、6Fエレベーターホールに作品を展示しています。是非、見に来てください。

2019年を迎えて



副院長
見附 保彦

新年明けましておめでとうございます。ここあわらは、昨年あれほど悩まされた雪もなく穏やかな新年となりました。皆さまにおかれましては健やかな新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。また旧年中は格別のご厚情を賜り誠にありがとうございました。

職員一同心より御礼申し上げます。

昨年4月に診療報酬と介護報酬の同時改定のほか、医療計画、医療費適正化計画、介護保険事業計画、および介護給付適正化計画など様々な制度・施策の見直しが行われ、社会保障・税一体改革における「2025年モデル」の構築に向けた動きがいよいよ加速してまいりました。

日本は少子超高齢化社会に備えて、これからさまざまなか革の取り組みが求められ実行されていくことになると

考えます。しかしながら社会がどのように変わっていこうとも、地域から求められていることは何かを常に考えながら、より安全で良質な医療と介護を提供できるように職員ひとりひとりの力を結集して、来るべき時代の要請に当院の役割を十分果たしていきたいと願っております。

当院は、障害児(者)医療、長寿医療、血液・リウマチ医療を政策医療に掲げるとともに、「Hospital in the home, Home in the hospital」をテーマに地域密着型医療体制を築き上げることを目標とし日々精進しております。

今年一年、さらなるご指導、ご鞭撻をよろしくお願ひ申し上げます。最後になりましたが、2019年が皆さんにとって佳い年になりますことをお祈りしつつ、新年のご挨拶とさせていただきます。



総合診療専門研修プログラム

平成30年4月に多くの紆余曲折を経て新専門医制度が開始され、同時に19番目の基本専門領域としての総合診療専門医の専門研修が開始されました。残念ながら当院を含む福井県内の研修プログラムに登録し研修を開始した専攻医はいませんでしたが、全国では約180名の専攻医が将来地域医療を支え国民の健康・福祉に貢献できるような専門医に成るべく研修をしております。

まだまだ医師の偏在助長による地域医療崩壊の懸念が拭いきれない新専門医制度の中で、新たに作られた総合診療専門医については専門医取得後のキャリア形成など不明確なことが他の基本専門領域よりも多いことは事実ですが、一つ一つ確実に問題は解決されてきておりま

総合診療科科長 鈴木 友輔

す。今年度は福井県内のプログラムにも専攻医の応募があり、今後着実に総合診療専門医を志す専攻医が増加するものと期待されます。

あわら病院では以前から日本プライマリ・ケア連合学会の後期研修プログラムver.2の認定を受けており、総合診療専門研修プログラムについても昨年度同様に今年度も日本専門医機構からの認定を受けることが出来、現在のところ専攻医を募集中です。今後も地域医療に貢献し続けると同時に教育活動にも力を入れていきたいと考えております。





地域医療連携施設のご紹介

あわら病院と連携している医療機関等をご紹介します

まつもと耳鼻咽喉科クリニック

福井県の観光地の定番のトップといえば我が三国町東尋坊ですが、実際に三国に住まいする者にとっては事態は深刻です。ここ数年のうちにマツダ、益茂証券が春江の福井市寄りへ移転してしまい、バローと海鮮アトムが消滅しました。医療界にあっても、三国病院が救急第一を目指す



外科が元気な病院から老人患者を主体とする内科系病院へと様変わりし、開業医の先生も減り続けています。今や何をするにしても三国町単独で



の繁栄は考えられず、坂井町、春江町、丸岡町そしてあわら市、加賀市を含めた福井・石川県境全体での視野が必要と考えます。そう考えた時、他勢的に石川県境により近いあわら病院は、旧国立系のためか看護師も能力の有る方が多く、院長先生をはじめとする先生方も温和で優秀なことから、援助を求めるには大いなる可能性を秘めた病院であると思います。

これから短い冬を乗り越えれば春を迎えます。春になれば、今年も、あわら病院の周りは夢のような桜一面となる事でしょう。あわら病院の桜は、知る人ぞ知る観光の名所であると思います。

院長 梶本 順雄

まつもと耳鼻咽喉科クリニック

〒913-0016 福井県坂井市三国町三国東5-2-3

TEL (0776) 81-8733

※4月で日曜診療終了予定

| 診療科目 | 診療時間 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|--------|-------------|---|---|---|---|---|---|------------------------------------|
| 耳鼻咽喉科 | 8:30～12:00 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| アレルギー科 | 14:00～18:30 | ○ | ○ | ○ | — | ○ | ○ | ○ |
| 気管食道科 | | | | | | | | 第13.5. 9:00 12:00 17:00まで |

重症心身障がい児(者)看護研修を企画・運営して

重症心身障がい児者病棟
看護師長 三宅 康子

去る11月22日、平成30年度重症心身障がい児(者)看護研修を実施しました。この研修は国立病院機構近畿グループが、重症心身障がい児(者)の医療・看護に携わっている関係職種に対して、必要とされる知識の習得と資質の向上を図ることを目的として実施している研修です。今年度はあわら病院が運営担当となり「その人らしさを支え、意思決定を支援する」をテーマに企画し、近畿圏内の国立病院機構から26名、福井県内の施設や行政等から16名が参加されました。午前は医療の特徴・障害福祉制度の動向・虐待防止・コミュニケーションの講義、午後からは社会福祉法人風祭の森太陽の門福祉センターの眞鍋裕紀子先生をお迎えし、重症心身障がい児(者)の意思決定支援についての講義と、当院での事例を紹介しまし

た。「重症心身障がい児(者)の意思決定支援、これから私たちは何をすべきか」をテーマにしたグループワークでは、患者さんのサインを見逃さず共有していくこと、ご家族との関わりや思いを知ることの大切さを改めて学ぶ機会となりました。また、今回の研修会場は北潟温泉湖畔荘hanaゆらりを利用し、北潟湖を望みながらの絶景の中での昼食もあり、日々の疲れも多少は癒されたのではないかと思います。今回の研修での学びを各施設で深めていただき、今後も地域全体で重症心身障がい児(者)を支えていきたいと思います。



外来担当医表

(平成31年2月1日現在)

| 診療科 | | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|-----|-------|-------|-------|---------------|--------|--------------|
| 総合 | 内科 | 津谷 寛 | 津谷 寛 | 見附 保彦 | 見附 保彦 | 宮崎 晋介 |
| | 小児科 | 川満 徹* | 川満 徹* | 川満 徹* | 湯浅 光織* | 川満 徹* |
| 専門 | リウマチ | | | 津谷 寛 | 津谷 寛 | |
| | 血液・腫瘍 | | | 浦崎 芳正* | 大槻 希美 | |
| | 生活習慣病 | | | 鈴木 友輔(第2・4) | | |
| | 老年 | | | | | 棄田 敦(第1・3・5) |
| | 神経 | | | 遠藤 芳徳(第1・3・5) | | |
| | 循環器 | 見附 保彦 | 見附 保彦 | | | |
| | 外科 | 齊藤 貢 | 齊藤 貢 | 齊藤 貢 | 齊藤 貢 | 齊藤 貢 |
| | 整形外科 | 浅井 一希 | | | | |
| | 眼科 | | | | 吉岡 達也* | |
| | 皮膚科 | | 若原 真美 | | | 若原 真美 |
| | 地域ケア | 鈴木 友輔 | | | | |
| | 禁煙外来 | 見附 保彦 | 見附 保彦 | | | |

●受付時間8:30～11:30 ●黄色枠は予約制 ●*印は午後診察 ●休診日／土・日・祝日・年末年始

※皮膚科の診察は、火曜日・金曜日の午前中(受付時間8:30～10:30)です。

※神経内科の診察は、第1・3・5水曜日(受付時間8:30～11:30)です。

平成31年 大雪への備え

庶務係長 西村 重之

昨年の福井の豪雪を経験した当院では、毎年冬を迎えるにあたって「融雪装置点検作業」を行いました。昨年は大雪で大活躍してくれましたが、一年もたつと石や泥がつまり水が出ない箇所も多くありました。それらを一つずつ細い針金等を使い水がしっかりでるように調整しました。

また、今年は新しい除雪車を購入し、操作説明会を開催しました。また、融雪剤も購入して正面玄関に設置しております。

国は大雪に備えた様々な取組のひとつとして、この冬か

らタイヤチェーン装着の義務化を施行します。大雪による車の立ち往生を防ぐためとのことですですが、あわら市熊坂や北陸道自動車道の一部区間なども含まれますので、大雪時限定ではありませんが、通行される方はタイヤチェーンの携行をお願いします。

また、県は「雪みち情報ネットふくい」のホームページをリニューアルして、県内の道路状況や通行規制情報等が配信されておりますので、外出の際には事前に確認してください。

災害の中でも雪害はある程度事前に情報を得ることが出来ますので、事前の備えを皆さん心がけてください。



独立行政法人 国立病院機構 あわら病院

福井県あわら市北潟238-1 TEL.0776-79-1211(代表) FAX.0776-79-1249
(地域医療連携室) TEL.0776-79-1212内線(785) FAX.0776-79-1261
URL <http://www.awara-hosp.jp/>

【診療科】内科、小児科、外科、皮膚科、血液・腫瘍内科、リウマチ科、神経内科
老年内科、循環器科、整形外科、眼科、リハビリテーション科

【病床数】172床

【教育】日本内科学会認定教育関連施設、日本血液学会、日本リウマチ学会認定施設

交通のご案内

えちぜん鉄道「あわら湯のまち」駅より(5km)
乗合タクシー(デマンド交通)[事前予約が必要]

JR北陸本線芦原温泉駅より(10km)
乗合タクシー(デマンド交通)[事前予約が必要]